子どもの森通信

kodomonomorikodomonomorikodomonomorikodomonomori

第８号

2011年６月発行

子どもの森通信8号　The kodomonomori Environmental Presrvation Non Profit Organezation

食と環境の関係を考える ……２～３
森に学ぼう！森と遊ぼう！ ……４～５
協働商談会 ……６～７
豊かな森づくり活動 ……８～９
森の学舎 ……10～11
２３年度活動予定 ……12

食と環境の関係を考える ワークショップ型協働モデル事業

食と環境の関係を考えるワークショップ型協働モデル事業（協働モデル事業）とは

命の営みであった食の生産が、経済活動へと組み込まれて効率・利益を偏重する結果、化学肥料の集中利用、農薬を用いた工程が標準となり、季節と自然に調和した昔ながらの農業が見られなくなってきました。流通にも効率・経済性が強く求められ、結果として生産者の顔、生産・加工のプロセスが見えにくくなっています。加工・調理品の中にはどこの国から入ってきたものかさえわからないものもあるほどです。

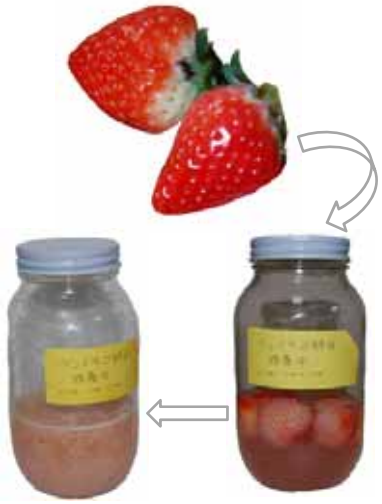
さらに、いま我々は季節や地域を問わずさまざまな食材を手に入れることができるようになりました。しかし同時に、食べ残しや賞味期限切れによる破棄も急増して環境への負荷も増大し、輸入食品による運搬で過大なエネルギーを使用しています。そして、一粒のお米にも感謝の念をおぼえたほんの数十年前とは大変な変わりようです。健全な食は健全な環境から生み出されるものです。

宮崎県市町村振興協会から助成を受けて、行政と労働団体、地域住民と協働して、パンづくりを通して食と環境の関係を考える活動です。パンを焼くまでに、塩・バター・酵母・小麦粉などは参加者で手作りして、パン窯も製作していきました。事業終了後は、参加者が各職場や各地域において、協働モデル事業を通して実践し習得した環境に対する問題意識を啓発普及することが期待できます。

2011.1.10　小麦を挽く

石臼は、森の学舎の近所で昔使われていた物を譲っていただきました。左回しでゆっくりと回し、全粒粉からふるいで細かい小麦までに仕上げていきました。

2011.1.10　酵母をつくる



松瀬地区で栽培されているイチゴを使い酵母を作りました。1週間かけ自宅で酵母を育てます。毎日、瓶を振り、フタを外して空気に触れさせます。

2010.9.4　塩づくり

瀬渡し船で門川沖10数キロまで海水を取りに行きました。その海水を釜戸で煮て、約2時間半かけ塩が完成しました。10ℓで210gの塩ができました。

パンを焼く　2011.1.23

材料を混ぜ合わせこねます。一次発酵、二次発酵とおこない、パン窯を200℃にして焼きあげます。自家製酵母なので、発酵に時間がかかりました。

パン窯作り　2010.12.4

小屋改修から始めて、窯が完成するまで3ヶ月かかりました。窯天井部分の制作は難しかったです。遠方からの頼もしい応援もあり無事完成しました。

バターを作る　2011.1.16

牧場での体験活動だったのですが、韓国で発生した口蹄疫で立ち入りができなくなり、学舎での活動です。ペットボトルに材料を入れ、ひたすらシェイクします。

食と環境の関係を考えるワークショップ型協働モデル事業（協働モデル事業）から

「四季をまるごと体験ecoスクール」へ

食材料作りからパンを焼くことで、食の大事さを五感で感じることができる（食への意識）、近くで採れた食材は輸送などのエネルギーを軽減できる（エネルギーへの意識）、きれいな海水だからこそ塩を作ることができる（自然への意識）等、お店で購入した食料品では感じることができない多くことを考えることができました。

子どもの森では、平成23年度に「四季をまるごと体験ｅｃｏスクール」を開催します。ｅｃｏスクールは、21年に企画を立て、22年の協働モデル事業で実践に向けての準備を行いました。そして、今年度ｅｃｏスクールの開校をむかえることができました。内容は、森、川、海での自然体験、農業体験など計9回のプログラムとなっています。

これからの時代を担う子どもたちに体験を通して、自然の大切さを感じてもらえたらと思っています。

第一回目の開催日は、6月25日です。開校式後に森の学舎周辺でのネイチャーゲームをおこないます。五感を使い、ゲームを通して自然の不思議や仕組みを学び、自然と自分が一体であることに気付くことができる体験活動となります。

森に学ぼう！森と遊ぼう！

2010年11月14日

森をテーマにした体験型環境学習「森で過ごそう！森に学ぼう！」を開催。この体験型環境学習では、 樹木の二酸化炭素吸収量学習、ドングリ苗木の育て方、ドングリを使った工作、アウトドアクッキング（あぶり焼きソーセージ作り）を通して、自然の豊かさを楽しみ自然の大切さを学びます。また、自宅でドングリを苗木に育て山に帰（植樹）します。

樹木の二酸化炭素吸収量は、森の学舎グランドにあるセンダン、イヌマキ、サクラの木の高さを樹高測定器と巻尺を使って計測してから、樹高が3m以上の木は胸の高さで、樹高が3m未満の木は根元で幹の外周を測った後に、その木の年間の二酸化炭素吸収量を計算しました。1本の木の二酸化炭素吸収量と人間一人の呼吸で吐き出す二酸化炭素の量や家庭で使う電気量から発生する二酸化炭素の量との比較をしました。樹木が二酸化炭素を吸収してくれる大事な存在であることを学びました。（小学校高学年用にアレンジした内容であったため、参加した小学校低学年以下の子どもたちにとっては難しかったと思います。）みんな頑張って学習してくました。

樹高測定器を使って

2010年8月1日

「川をたのしく親しもう」この活動は、ネイチャーゲームで、自然をさまざまな感覚や心を通じて理解し、自然と自分が一体であることを学び、川あそびをとおして自然の豊かさを楽しみ、自然の大切さを学ぶ活動です。

朝からとても良い天気の中、8時30分を過ぎた頃から、今日の参加者の皆さんが集まって来てくれました。9時になりオリエンテーションと記念撮影を済ませて、フェニックス宮崎ネイチャーゲームの会リーダーさん4名の自己紹介後に、五十鈴川に降りていきました。今回のネイチャーゲームはジグソーストーンと宝物探しです。ジグソーストーンは、河原の石を使ってジグソーパズルのように魚やエビ・カニ等の絵の上に石を並べていきます。普段は何も気にすることがない小さな石をマジマジと見る機会となり、自然界には決して同じ石が存在しないことを確認できました。

宝物探しは、カードに書かれた物（例えばキラキラしている物）を川の中で探し、川の生き物調べにつなげて行きます。手長エビやオイカワ等を手網で獲って、最後に探した宝物の名前を確認して、生き物たちは川にもどしました。

お昼はそうめん流し

これからの時代を担う子どもたちに、良質な自然環境を残すためには、体験型の環境教育は、重要なかぎとなるはずです。森の中等での自然体験活動にこだわり、楽しみながら遊びながら、結果よりプロセスを重視して、環境について考えてもらう工夫をした催しを開催しています。

未来の子どもたちに残したい自然環境

子どもの森理事　工藤恵理香

私は今27歳、自分が親になる歳になって改めてこのテーマについて考えると、とても難しく問題でもあり、大事にしなければならない問題でもあると思います。それだけこの数十年の間で、自然環境や人間の生活が激しく変化してきています。

私が子どもの頃に海や川で泳いだり山に登ったり木登りして遊んで楽しんだことを思い出すと、やはり未来の子どもたちにも同じような環境を残してあげたいと思います。今思えば、自然とふれあうことで自然の偉大さや自然の摂理、変化など、いろんな大切なことを無意識のうちに学んでいました。現代の子どもたちは、自然と身近にふれあうことができない子どもが多くなってきています。成長の過程でそんな大切なことを学ぶチャンスをすっかり失ってしまっているということは、人格形成の点で軽視できない問題だと思います。

先日の東北地方大震災で、人間の創りだしたものがいかに自然の力には無力かを痛感させられました。自然エネルギーが見直され、日本中で節電が呼びかけられている今、これからの自然のあり方、可能性を改めて考える直す時期だと思います。自然が人間の生活にうまく取り入れられて、守られ循環できるように、私は自分でできることを進めて行きたいと思います。

2011年3月21日

「植樹＆春を楽しもう」では、森の学舎で植樹と野草・山菜料理、シイタケ菌コマ打ちなどで春の自然を楽しみました。

曇り空で時より日差しがのぞき暖かい一日で、参加者・スタッフ共に春を堪能できました。
森の学舎周辺の田んぼや土手で野草・山菜の本を持って、食べることができる野草・山菜を約1時間かけて探しました。収穫したのは、「タケノコ、タネツケバナ、スイバ、ヤブカンゾウ、ミツバ、ツクシ、フキノトウ、ヨモギ、カラスノエンドウ、ヨメナ、レンゲ、ノビル、ゲンノショウコウ、スミレ、オニタビラコ、オオバコ、セリ、アザミ」の18種類です。

スイバとノビルは和え物に、ヤブカンゾウとノビルはさっと茹でて酢味噌で、オノタビラコとセリとミツバは釜戸で炊いたごはんを使い雑炊に、タケノコは焼きタケノコ、18種の野草・山菜は天ぷらにしていただきました。
野草・山菜料理での昼食が終わったら、シイタケほだ木を作りました。コナラの木にシイタケ用ドリルでコマ穴を開けて、木槌でシイタケ菌の付いたコマを打ち込んでいきました。約1年8ヵ月後のシイタケ収穫が楽しみです。

協働創出市 2010

平成２３年２月９日（水曜日）１８：３０～２１：３０（開場１７：３０）
会場：クリエイティブセンター門川　多目的ホール
主催：特定非営利活動法人子どもの森・宮崎県（生活・協働・男女参画課）

県北のＮＰＯ・ボランティア団体・企業・行政が一堂につどい自分たちの想いをかたちにする協働商談会を開催しました。

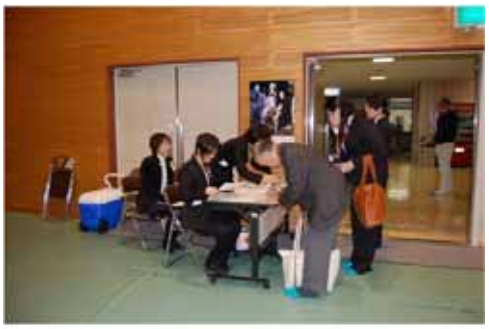
◆目　的

出会い・交流・情報交換、新たな発見の場として、ＮＰＯ・ボランティア団体や企業・行政など多様な主体が認識を持ち、志をひとつにして、協働を推進するための出会いの場で、あたかも商談をするかのように協働の相手先を探すことにより、新しい協働事業を創出するものです。

会場設営

主催者あいさつ

自己紹介



受　付

■32 団体（NPO・ボランティア団体 14、行政７、企業５、労働団体２、その他４）７３人が参加

特定非営利活動法人子どもの森　　協働創出市を主催し、宮崎県（生活・協働・男女参画課）と協働して事業を進めています。

宮崎県（生活・協働・男女参画課）　協働創出市を委託し、子どもの森と協働して事業を進めています。

■協働創出市に参加した団体の一覧です。　　敬称略

連合宮崎
財団法人日本宇宙少年団　延岡分団
延岡市（市民協働・男女参画課）
門川町（総務企画課）
特定非営利活動法人ひめしゃら倶楽部
日向市（市民協働課）
連合宮崎　県北地域協議会
株式会社ビットクラブ　ビットキャリアスクール
特定非営利活動法人リバーシブル日向
諸塚村（総務課）
株式会社ケーブルメディアワイワイ
NPO 法人のべおか市民力市場（宮崎県北の地域医療を守る会）
特定非営利活動法人五ヶ瀬自然学校
プリンシプル株式会社
日本財団ＣＡＮＰＡＮプロジェクト
日之影町（地域振興課）
財団法人宮崎県市町村振興協会
シニアコミュニティ宮崎
旭化成株式会社　延岡支社
創造堂
特定非営利活動法人ＮＰＯのべおか
特定非営利活動法人ささゆり
Ｋｅｎｐｏｋｕ・Ｐａｍａｋｉ
宮崎県難病相談・支援センター
宮崎ダンボールコンポストネットワーク　門川支部
NPO 法人福祉支援協会ライフサークル
宮崎県西臼杵支庁
みやざき森づくりコミッション
株式会社クリエート
宮崎県ＮＰＯ活動支援センター

ご都合により協働創出市に参加できなかった団体。
株式会社西の丸（一善の会）
特定非営利活動法人家庭・青少年教育ネットワーク
株式会社内山建設
社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会（地域・ボランティア課）

子どもの森と宮崎県の協働について

それぞれの団体単独では、その想いを形にすることの難しさを、７年間の子どもの森の活動を通して感じていました。一方、企業や他の団体と協働し活動した時には、容易に形になっていく実感がありました。

同じ想いを持つもの同士が一緒になって活動や事業を進めて行くことが、地域の問題解決にとって有効な手段であり、宮崎県の委託事業である「協働商談会開催事業」が、子どもの森の感じている協働を地域に広げることができる事業であることから、子どもの森で宮崎県生活・協働・男女参画課と協働して「協働商談会」を開催することにしました。

http://kyodo-syodan.community.officelive.com

商談会の様子

協働とは・・・

ＮＰＯや行政・民間企業がそれぞれの主体性、自発性のもとにお互いの立場や特性を認識・尊重しながら、共通の目的を達成するために協力・強調すること。

ボランティア、民間企業そして・・・新しい公共の担い手ＮＰＯ

ＮＰＯ（NonProfitOrganaization）とは、民間の非営利組織です。

ＮＰＯの定義は統一されていませんが、県では、法人格を持つ特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）及び法人格を持たないボランティア団体その他の市民活動団体等としています。ＮＰＯは、地域の課題を解決するために社会的な使命感を持ち、新たな公共の担い手として期待されています。

※「非営利」とは、収益活動を行ってはいけない（儲けてはいけない）ということではなく、収益を団体の構成員に分配をしてはいけないということです。

※自治会、自治公民会、婦人会などの地縁団体も、公益の活動を行う場合はＮＰＯに含まれます。

あなたにもできる！協働

★農家が「食」の安全を提案
★自動車メーカーが交通安全啓発
★薬局が介護予防も
★書籍店で読み聞かせ
★宅配のついでに高齢者の見守り
★ガーデニングのついでに道路もきれいに
★居酒屋が町の集会場
★犬の散歩で見守り活動

その他にもアイデアしだいで協働の輪は広がります！

協働Ｑ＆Ａ

・協働すると、どんな良いことがありますか？

厳しい社会情勢が続く昨今、ＮＰＯや行政、民間企業の力だけではどうにもなりません。みんなで汗や知恵を出し合うことで、想いをかたちにすることができ明るい未来に近づくことができます。

・協働するにはどうしたら良いですか？

協働創出市で、地域社会をよくしたい想いを話し同じ想いを持っている相手を見つけましょう。きっと協働するパートナーがみつかります。

（「宮崎県とコラボしよ！」リーフレットより）

コラボシスターズ（協働イメージキャラクター）

コラボ鏡ちゃん
協働で必要な機動性をイメージしています。

コラボ玉ちゃん
協働で必要な柔軟性をイメージしています。

コラボ剣ちゃん
協働で必要な先駆性をイメージしています。

子どもの森が取り組む豊かな森づくり活動

■２０１０年10月30日
竹の樹木粉砕機竹粉仕様ＧＳ１２１ＧＢが届きました。この粉砕機は、緑の募金特定公募事業からの助成金を受けて導入しました。
使用法やメンテナンスを説明するために、メーカーから営業の方が一緒にやって来ました。

■２０１０年12月19日
（株）ローソンの社員さん、近隣のローソン店舗の店長さんと従業員さんが、ローソン緑の募金の取り組みの一環として、竹林の整備に参加してくれました。
○参加者　計28人
子どもの森会員５人・一般参加者６人
ローソン門川日向病院前店２人
九州ローソン宮崎ディストリクト12人
九州ローソン九州ＤＣサポート２人
ローソン地球環境ステーション１人

妖精の森

竹林となってしまった森林の一部を、子どもが入り遊ぶことができる広葉樹の森に再生しています。

■12月23日・25日・29日・30日
「ローソン参加による竹林の整備」で伐採してグランドに置いていた約100本の孟宗竹を、延べ14人で４日間かけてチップ処分しました。粉砕機でチップにできるのは直径12Cmまでなので、それより太い竹は、チェーンソーで玉切りし、さらに縦に二割して、女性でも運搬できる大きさと重さにしました。グランドにあるサクラの周辺に竹で枠を施しチップを蒔いていきました。
伐採竹を活用した９箇所の竹棚に枯れた倒竹や作業のために伐木の枝を積み、これまでに竹を伐採した空間の整備が終りました。昨年11月からの伐採した竹は約200本で、昨年度未処理だった竹も含め粉砕して作ったチップの体積は約36m3（竹約２６０本分）でした。

■２０１１年３月21日　植樹活動
昨年植樹していた苗木の一部が、ウサギからかじられ、イノシシのタケノコ掘りで倒されたため補植を行いました。

■下草刈り　２０１０年６月19日
大雨の中「ＧＯＣＡＮの森」に到着しました。オリエンテーション、ストレッチ体操して下草刈を始めるころには、小雨となり30分程して雨も上がりました。参加者は全員汗ダクダクになり約１時間30分で下草刈は終了しました。下草刈終了後、森の学舎に移動して流し素麺で昼食としました。
昼からは晴れ間ものぞく梅雨特有の気まぐれな天気に振りまわされた一日でした。
参加会員６人、一般参加者６人（内子供２人）

■秋の下草刈り10月23日
６月に大雨のため中止になった門川高校生との「ＧＯＣＡＮの森」の下草刈を実施しました。
参加者は、門川高校からバスでＧＯＣＡＮの森に出発しました。雨が何時に降ってもおかしくない空模様でしたが、午前中はなんとか天気がもって、蜂や蛇も見かけず暑くなく寒くなくで、作業するには上々のコンディションでした。
高校生８人と先生１人、子どもの森から３人の計12人の参加で、やや人手不足の感がありましたが、参加者全員のがんばりで、予定していた時間より早く下草刈が終わりました。
下草刈終了後は、バスで森の学舎まで移動しました。朝の集合が早く、２時間の作業で疲れたのでしょう、移動中のバスでは、運転手さん以外は全員居眠り状態でした。森の学舎に到着して、男子生徒は造林鎌の手入れ、女子生徒は釜戸で炊飯をしてくれました。用意していた豚汁で昼食を食べて、森の学舎でしばし休息をとり解散
時間になって、高校生は再び門川高校までバスで戻りました。

五　感
GOCANの森

門川高等学校演習林を五感で森林自然を感じることが出来るように高校生と一緒に取り組んでいます。

【森づくり活動】
延べ実施日数21日間
延べ参加人数１２９人

森づくりボランティアに参加いただいた皆様ありがとうございました。

森林環境セミナー

～森の達人になろう～

昨年度までは森づくりボランティア養成セミナーとして実施していた森づくりセミナーを、今年度は森林環境セミナーとして開催しました。昨年度には無かったカリキュラムを入れ日程も3日間とボリュームを増やしました。

環境問題への取組みのひとつである森づくり活動に継続して参加するボランティアと、森づくり活動を自らコーディネートするリーダー的ボランティアを育成するセミナーで、今回が3年目（3度目）の開催となります。

◆森づくりボランティアの紹介

県内の森づくり団体が、どのような森づくりをやっているのか、また森林などを活用してのどのような環境学習をしているかを説明しました。

◆森づくりのための森林生態学

髙木先生による林業を中心とした森づくりの考え方の講義でした。森づくりボランティアとして中心に位置づけるのは、森林の持つ様々な働きであることであると思いました。

◆安全管理

設備のメンテナンス・不適切な作業環境・疲労や加齢等の人的要因・作業の管理の何れかに欠陥がある場合に林業労働災害の発生がおきること、作業時の意識改革や作業前ミーティングの必要性、事故を未然に防ぐ対策、自己発生時の対応を前もっと準備しておくこと等を学習しました。

そして、災害の事例について、講師の岩田さんの周辺で起きた災害事例の説明もありました。林業労働災害については、ボランティアにも同じようにあてはまると思います。

◆森林資源の活用（きのこ栽培）

森づくり活動をして、作業の安全上でどうしても下木（広葉樹）を倒さなければならない時があります。倒した下木も有効に活用しなければなりません。薪にしたり炭にしたり、チップ化して堆肥等に利用したりします。そのひとつとして、キノコの原木への使用もあります。昨今の森づくりボランティアでは、活動の楽しみとしてのキノコ栽培も盛んに行われています。

キノコは菌種であり、分解者として菌種が自然界に必要不可欠な存在であること、キノコが育つ自然環境とキノコの生育についてを学んだ後、キノコの菌コマ打ちを体験しました。コナラの原木にシイタケ菌コマを、ハゼの木の原木にキクラゲの菌を接種しました。

◆チェーンソー・刈払機などの山林作業機械の使用法

倒木作業での受け口と追い口についての説明がありました。チェーンソーと刈払機の基本的な使い方、チェーンの目立てについて、樹木粉砕機の紹介を行いました。

◆緊急救命講座

（熱中症対策の話の中で）蒸し暑い日に半日間の森づくり作業で流す汗が2リットルかきます。その分の水分を補水する時に、塩分（ナトリウム）の補給も必要であるため、十分なナトリウムの入った飲み物を選びます。市販されているほとんどの飲料水はナトリウムが含まれていますが、塩分控え等の健康飲料水にはナトリウムが少ないので注意が必要です。

足長蜂やすずめ蜂にはかなり注意を払わなくてはいけません。蜂の行動特性を知り、蜂に刺されたときの応急処置用具の使い方等を学習しました。

◆樹木観察

森の学舎周辺を散策して、講師の南谷先生から植物の名前と方言名や特長など説明がありました。説明のあった植物には、名前プレートの設置をして行きました。また、食べられる野草を摘んで昼食の時に調理していただきました。

◆森づくりと自然保護

森づくりで植樹する時は、本来そこに生息している樹木を植樹することが大切です。苗木も同地域の種から育てた物を使用します。同じ遺伝の木だと何らかの原因で一度に滅びる可能性が大きいため、挿し木や同じ木の種を使わないようにして遺伝子かく乱が起きるように、同じ樹木でも多様性を持たせること。しかし、遠い地域の種から育てた苗木を使ってはいけないこと。できるだけ多くの種類の苗木を混ぜて植え、そこの環境により適した木だけが生き残れるようにすること等、多くの知識を得ることができました。

植物の分布において、その地域にしかない存在しない稀少な植物も多くあることの説明もありました。宮崎は日本の中でも多種な植物が存在する地域です。

1日目

2月6日		
9:00	開講式、オリエンテーション	事務局
9:20	森づくりのための森林生態学	宮崎大学農学部准教授 髙木 正博 氏
11:30	森づくりボランティアの紹介	事務局
13:00	森づくりでの安全管理	安全技術指導員 岩田幸生 氏

2日目

2月20日		
9:00	森林資源の活用（キノコの栽培）	事務局
11:30	チェーンソー・刈払機などの山林作業機械の使用法	林業従事者 松本哲也 氏
13:00	チェーンソー・刈払機などの山林作業機械の使用法	林業従事者 松本哲也 氏

3日目

2月27日		
9:00	緊急救命講座	福岡県災害ボランティア連絡会幹事 NPO 法人日本防災士会 福岡県支部長 竹下裕一 氏
11:00	樹木観察	宮崎植物研究会会長 南谷忠志 氏
14:00	森づくりと自然保護	宮崎植物研究会会長 南谷忠志 氏

もりのまなびや

森の学舎

旧西門川小学校松瀬分校を活用している森の学舎。環境プログラムの開催と環境文庫の常設をしています。また、団体への施設開放、自然体験活動の受け入れもおこなっています。
http://www.kodomonomori.info

学舎の開放

ファミリーキャンプ大会＆上進式

主催／ボーイスカウト延岡第4団
2010年8月21日～22日

団内のビーバー隊からローバー隊のスカウト全員が相互の友情を深め、隊を上進する隊員を祝い、保護者がキャンプの支援共同作業により交流を行い、スカウト経験者を招待して活動の励みにより組織拡充を図ることを目的として、ボーイスカウト延岡第4団の全隊員（ビーバー隊、カブ隊、ボーイ隊、ベンチャー隊、ローバー隊）と保護者、入隊体験希望者の総勢約50数名によるキャンプが森の学舎で実施されました。

手作りイカダ

「松木正さん講演会」

主催／地域をわくわく元気にするプロシード

2011年2月20日

約40人の参加者により、地域をわくわく元気にする会プロシード（延岡市）主催の「松木正さん講演会」で、教室棟を16時から21時まで使っていただきました。

森林環境セミナー2日目が15時終了して、入れ替わる形での教室棟の開放となりました。以下、簡単に講演会について説明します。

松木さんは、青少年活動に関わる中で、アメリカの環境教育に出会い渡米し、様々なプログラムと人に出会う中で、スーインディアン（ラコタ族）居留地区でアメリカ先住民と生活を共にし、その自然観、生き方、伝統儀式を学びました。その時の様子と、スーインディアンの自然観、生き方、伝統儀式のすばらしさを伝える講演でした。

学舎の整備

森の学舎の環境整備として、2010年５月連休に①露天風呂、②パンフレット棚、③タイルの流し、④箱メガネ収納棚。2011年５月連休には、⑤道具整理棚、⑦移動黒板、⑧受付用机と椅子のセット、⑨屋外用カフェ机を２個、⑩椅子のない机用のために学習椅子を３脚、を製作しました。他に、シイタケホダ場で見つけた⑥カブトムシ幼虫の飼育箱を作りました。タイルの流しはご近所で頂き、杉の廃材、廃棄された物等を活かして作ったものばかりです。

MRT環境賞大賞受賞

MRT環境大賞授賞式

2010年11月27日

MRT宮崎放送が環境問題に取り組む団体や個人を表彰する「2010年度MRT環境賞」に、子どもの森が最高賞の大賞に選ばれました。

まさかまさかの受賞ですが、長年の活動が認められての大賞ですので嬉しい限りです。これも、会員全員で真摯に、森づくりや環境学習などに取り組んできた結果だと思います。これからも、子どもの森らしい創意工夫した活動を進め、少しでも地域しいては地球の自然環境のため、次の世代の子どもたちに豊かな自然環境を引き渡すための活動を進めて行きたいと思います。ありがとうございました。

連合愛のカンパ贈呈式

2010年10月24日

連合愛のカンパから、今年で3回目となる助成金を受けました。過去の贈呈式は、連合宮崎執行委員会でしたが、今年は第20回記念定期大会での贈呈式となりました。全国で43団体に助成が決定し宮崎県では7団体が選ばれたそうです。各団体への贈呈が行われた後に、各団体に1分間のスピーチが任されました。子どもの森は、一番目で横山理事が、助成が会員の励みになることと、助成のお礼と使途について話をしました。

イオン黄色いレシートパネル展

2011年4月10日

ロックタウン日向の2階売り場で、黄色いレシートキャンペーンの登録団体のパネル展が開催されています。ロックタウン日向の登録団体は12団体で、子どもの森のパネルには、昨年度の活動写真とその説明、森の学舎とMRT環境大賞についての写真を設置しています。

みやざき森づくりボランティア協議会加盟団体としての活動

宮崎県内の森づくり団体が集まって、情報交換や森づくりの研修・技能を学んでいます。また、一般の方への普及活動も行っています。子どもの森は、2005年に加盟し、現在20団体が所属しています。

主催／みやざき森づくりボランティア協議会 刈払機研修会

2010年9月11日

宮崎中央森林組合にて研修会を行いました。午前中に「安全講習」の講義と「生物多様性の森づくり」についての講話があり、午後からは高岡町にある一里山山林にて「機械の取り扱いについて」の現地講習があった後、グループに分かれ刈払機実技研修を行いました。

森づくりシンポジウム

2010年11月28日

登山家の田部井淳子さんの講演、みやざき森づくりボランティア協議会の加盟団体の「水源の森づくりをすすめる市民の会」と「環の会」による森づくり事例発表が行われ、約260人の入場者の方々がシンポジウムに熱心に耳を傾けてくれました。

◆取　材◆

MRTラジオ「エココロカフェ」
2010年8月1日
「川をたのしく親しもう」

MRTテレビ わいWaiTV
2010年11月14日
「森で過ごそう！森に学ぼう！」

宮崎日々新聞社
・きゅんと　122号付3面
・川をたのしく親しもう
2010年8月7日付22面
・手作り材料でパンを
2010年9月8日付22面
・広葉樹林再生目指す
2010年12月20日付13面
・五感で感じるパン完成
2011年2月8日付18面
・活動PRし情報交換
2011年3月4日付20面

◆ラジオ出演◆

2011年1月18日
MRTラジオ「バリッと朝！～アラカルト・ボランティア・ワールド」への出演

http://www.sotokoto.net/

ソトコト　2011年5月号
ロハスピープルのための快適生活マガジン『ソトコト』の特集（日本を元気にする九州の100人）で、理事長が紹介されました。
『ソトコト』は、全国の書店で発売されています。

平成 22 年度助成等の報告

＊宮崎県森林づくり活動支援事業（宮崎県森林環境税）
仮称妖精の森の竹伐採（竹林の整備）、高校生とのＧＯＣＡＮの森下草刈り、体験型環境学習（森で過ごそう森に学ぼう）への助成

＊緑の募金特定公募事業（国土緑化推進機構緑）
仮称妖精の森の竹伐採（竹林の整備）をするための樹木粉砕機の購入

＊門川町まちづくりプレイヤー支援
森の学舎の有効活用でもある環境文庫の書籍購入、森の学舎の水道管修理の資材費、体験型環境学習（川をたのしく親しもう）への助成

＊宮崎県ＮＰＯ・ボランティア活動人材育成・体験プログラム開発事業（宮崎県社会福祉協議会）
一昨年から継続している森づくりボランティア養成講座（森林環境セミナー）への助成

＊協働商談会開催事業委託費（宮崎県生活・協働・男女参画課）
協働商談会（協働創出市２０１０）の開催に係る委託費

＊協働モデル事業（宮崎県市町村振興協会）
行政と労働団体、地域住民と協働して、パンづくりを通して食と環境の関係を考える活動への助成

＊積水ハウスマッチングプログラム助成
活動財政強化と子どもの森ＰＲ活動

＊連合愛のカンパ
環境文庫の書籍や備品購入等の他助成での助成外（自己負担）へのカンパ

＊イオン黄色いレシート
イオン各店での黄色いレシートキャンペーン箱に投函されたレシート金額の１％相当額の物品が活動全般に寄贈

＊緑のｇｏｏ
パソコンや携帯から「緑の goo」を利用することで得る収益から、子どもの森活動全般への寄付

「環境文庫」本の寄贈

宮崎市　猪崎　悦子 様　　宮崎市　伊藤　一彦 様
宮崎市　中村　豊　様　　日向市　廣島　浩子 様
宮崎市　森永千佐子 様　　ありがとうございました

2011 年度活動予定

月	予定/実施日	活　動　名	場　所
4	24（日）	第１１回通常総会	森の学舎
	4/30（土）1（日）	竹林の整備、	妖精の森
	4（祝）5（祝）	森の学舎の施設整備	森の学舎
5	7（土）8（日）		
	22（日）	椎茸・木耳の本伏せ	森の学舎
	28（土）29（日）	竹林の整備	妖精の森
6	11（土）	森の学舎の施設整備	森の学舎
	18（土）	夏の下草刈	GOCAN の森
	19（日）	みやざき森づくりボランティア協議会総会	宮崎市高岡
	25（土）	エコ・スクール	森の学舎
7	9（土）10（日）	竹林の整備	妖精の森
	16（土）17（日）	竹イカダづくり、竹イカダ川下り	森の学舎、五十鈴川
	23（土）	エコ・スクール	森の学舎
	31（日）	川を活用した自然体験活動	森の学舎、五十鈴川
8	6（土）	エコ・スクール	五十鈴川
	3（土）	エコ・スクール	海沖、森の学舎
9	10（土）11（日）	竹林の整備	妖精の森
	17（土）	土曜教室	森の学舎
10	8（土）9（日）	竹林の整備	妖精の森
	22（土）	エコ・スクール	森の学舎
	12（土）13（日）	竹林の整備	妖精の森
11	22（火）	協働商談会	
	26（土）	エコ・スクール	森の学舎
12	4（日）	森林を活用した体験型環境学習	森の学舎
1	14（土）	エコ・スクール	森の学舎
	28（土）	エコ・スクール	酪農家
2	11（土）	エコ・スクール	森の学舎
	19（日）	森林環境セミナー	森の学舎
3	3（土）4（日）	竹林の整備	妖精の森
	18（日）	森林環境セミナー	森の学舎
	25（日）	植樹と山菜	森の学舎

◎環境文庫は、土・日・祝日に開館。ただし、森の学舎以外での活動や諸事情により閉館する。
◎他に「みやざき森づくりボランティア協議会」と他団体の活動への協力参加があります。

編集後記

3月11日に発生した東日本大震災により亡くなられた方々には心より哀悼の意を捧げますと共に被害を受けられた皆様にお見舞い申し上げます

平成22年4月宮崎県では、「口蹄疫」23年1月には「高病原性鳥インフルエンザ」の発生により多くの家畜が殺処分され、畜産農家の皆様をはじめ関係者のご苦労と悲しみは量りしれないものでした。県内での活動も自粛となることが多々ありました。子どもの森では、限られた中でやっていくことが私たちにできることだと考え活動を実施してまいりました。

多くの亡くなった尊い命のためにも環境を守っていく活動を続けていこうと改めて感じています。

純

表紙樹木

平成 23 年 5 月撮影（門川町）

イロハモミジ
【属名】カエデ科カエデ属
【樹形】落葉高木。高さは10～15m
【葉】対生。葉身の長さは3～7cmで掌状にち～9裂し、裂片には鋸歯がある。
【花】雌雄同株。垂れ下がった花序に暗紅色の花をつける。花期4～5月
【果実】翼果。長さは1～2cm
【分布】本州、四国、九州の丘陵帯
【名の由来】カエデは葉の形を「カエルの手」にたとえたもの、イロハはこの裂片をイロハニホと数える子どもの遊びから来たものだとされる。

子どもの森通信　第８号
発行・編集：特定非営利活動法人子どもの森広報委員会　〒889-0624 宮崎県東臼杵郡門川町城ヶ丘 2-2
TEL/FAX：0982-95-7800　Mail:office09@kodomonomori.info　http://www.kodomonomori.info